



**Hinemos クラウド仮想化オプション ve  
r5.0  
リリースノート**

## 目次

<b>1</b>	<b>リリース 5.0.c</b>	<b>3</b>
1.1	機能追加	3
1.2	機能改善	3
1.3	仕様変更	3
1.4	不具合改修	3
<b>2</b>	<b>リリース 5.0.b</b>	<b>4</b>
2.1	機能追加	4
2.2	機能改善	4
2.3	仕様変更	4
2.4	不具合改修	4

Hinemosは独立行政法人情報処理推進機構(IPA)の2004年度下期オープンソースソフトウェア活用基盤整備事業の委託を受けて開発しました。テーマ名は「分散ファシリティ統合マネージャの開発」です。

<http://www.ipa.go.jp/software/open/2004/result.html>

## 1 リリース 5.0.c

### 1.1 機能追加

- #3220 【Reporting】クラウド仮想化オプション用のテンプレート  
クラウド仮想化オプション(AWS/VMware)のリソース監視項目および課金情報に対応するテンプレートを新たに提供。

### 1.2 機能改善

- #3156 【Azure】仮想マシンを振り分けるグループIaaSおよびPaaSを追加  
クラウド仮想化(Azureコミュニティ版)にて、OSのvhdファイルを保持しない仮想マシンをPaaSグループ、保持する仮想マシンをIaaSグループとして格納するグループを作成する。
- #3157 【共通】自動検知されるノードの属性値を変更可能とする  
自動検知されて登録される際、ノードに埋め込まれる属性値をHinemosプロパティとして設定可能とする。
- #3232 【共通】IPアドレスが自動検知の2回目以降で反映される  
自動検知の2回目以降でIPアドレスが検知されていたが、初回ではIPアドレスが反映されるようにする。
- #3164 【Azure】仮想マシンを保持しないクラウドサービスをスコープとして登録可能とする  
クラウド仮想化(Azureコミュニティ版)にて、リソース(仮想マシン)を保持しないクラウドサービスも自動検知の際にスコープとして自動登録可能とする。
- #3167 【AWS】スナップショットにおいてnoRebootを指定可能とした  
クラウド仮想化(AWS商用版)のスナップショット取得APIであるsnapshotInstanceにて CreateImageRequestのnoRebootを指定可能とする。
- #3170 【共通】重複するファシリティIDを保持するノードが存在した場合、自動で関連付ける  
クラウド仮想化にて、自動検知された仮想マシンに基づき生成されたファシリティIDが既にノードとして登録されていた場合、仮想マシン情報と既存のノードを関連付ける。

### 1.3 仕様変更

なし

### 1.4 不具合改修

- #3155 【Azure】クラウドサービスで自動生成された仮想マシンが自動検知されない  
クラウド仮想化(Azureコミュニティ版)にて、クラウドサービスで自動生成される仮想マシンが存在する環境に対して自動検知を行った場合、自動生成された仮想マシンにて例外が発生して自動検知の処理が異常終了し、その他の仮想マシンの自動検知にも影響を与える。
- #3165 【AWS】スナップショットにおいてルートデバイス以外が含まれない  
クラウド仮想化(AWSコミュニティ版)にて、仮想マシンのスナップショットを取得してもルートデバイス以外のEBSがスナップショットに含まれない。

- #3166 【共通】 ジョブによりパワーオンなどの制御をする場合、スコープ外のノードが制御される  
クラウド仮想化(商用版)により、スコープ対象のジョブによりパワーオン・パワーオフなどの制御を行うと、同一クラウドスコープに含まれる他のノードが制御される場合がある。
- #3168 【AWS】 自動検知によりプラットフォームがOTHERとなる  
クラウド仮想化 (AWSコミュニティ版) にて自動検知されたE C2インスタンス、ELB、RDSのプラットフォームがOTHERに変わる。
- #3169 【VMware】 自動検知によりプラットフォームがOTHERとなる  
クラウド仮想化 (VMware) にて自動検知されたESXiおよびvCenterのプラットフォームがOTHERとなる。
- #3231 【VMware】 サスペンドジョブ (ノード単位)を実行するとパワーオフとなる  
ノード単位でのサスペンドジョブを実行した場合、ノードがサスペンドされずにパワーオフされる。
- #3227 【VMware】 サブプラットフォームIDの不一致に関する修正  
自動検知にて格納されるサブプラットフォームID(VMware vSphere)と収集項目マスタのサブプラットフォームID(vCenter /ESXi)の不一致により、自動検知されたノードに対して収集項目が設定できない。

## 2 リリース 5.0.b

### 2.1 機能追加

- #3123 【Azure】 Microsoft Azureへのコミュニティ版対応  
Microsoft Azureに対応したコミュニティ版をリリースした。

### 2.2 機能改善

- #3122 【共通】 自動検知されたノードの説明内容の修正  
RegisterやRegistと表記ゆれがあるため、Registeredに統一した。

### 2.3 仕様変更

なし

### 2.4 不具合改修

- #3096 【共通】 facility\_idのカラム型が本体と統一されていない  
facility\_idを格納するカラムが本体のvarchar(512)と異なる不具合を修正した。
- #3106 【共通】 javaが含まれていないjarファイルが存在する  
プラットフォーム固有のjarファイル内にjavaファイルが含まれていない不具合を修正した。
- #3107 【共通】 ミッションクリティカルオプションとファイル構成が競合する  
ミッションクリティカルオプションとディレクトリ・ファイルが競合する不具合を修正した。
- #3110 【共通】 rpmの再インストール時にエラーとなる  
クラウド仮想化オプションをアンインストールした後、再度インストールすると、PostgreSQLに関するエラーメッセージが出力される不具合を修正した。
- #3114 【共通】 クラウドスコープ一覧表示が最新化されない  
追加されたクラウドスコープが一覧に表示されないことがある不具合を修正した。

- #3115 【共通】 本体のws.client.addressに異なるパラメータ名が付与されている  
Hinemosプロパティws.client.addressに異なるパラメータ名common.ws.addressが付与されている不具合を修正した。
- #3116 【共通】 ロケーション配下に何も存在しない場合、エラーメッセージがログに出力される  
ロケーション配下に何も存在しない場合、エラーメッセージ(org.postgresql.util.PSQLException: ERROR: syntax error at or near ")") がログに出力される不具合を修正した。
- #3058 【AWS】 リッチクライアントインストール後にクラウド関連の操作ができない  
クラウド仮想化 (AWSコミュニティ版) のリッチクライアントで、クラウド関連の操作を行なおうとしても実行できない不具合を修正した。
- #3117 【AWS】 en\_aws\_ebs\_metrics.sqlにてエラーとなる  
インストール時にen\_aws\_ebs\_metrics.sql:131にてエラーとなる不具合を修正した。

#### Hinemos クラウド仮想化オプション リリースノート

##### 非売品

- 禁無断複製
- 禁無断転載
- 禁無断再配布

Hinemosは（株）NTTデータの登録商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

なお、本文中にはTM、Rマークは表記しておりません。